

(参考)

手賀沼底質における深度別放射性物質について

平成25年10月29日
千葉県環境研究センター
電話 0436-21-6371

環境研究センターでは、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故により拡散した放射性物質について、県内の閉鎖性水域を中心とする汚染実態等を把握することで、今後の放射性物質の移動・移行等に関する知見を得ることを目的に放射性物質動態調査を行っています。

底質の放射性物質濃度が高い手賀沼について、4地点の底質における深度別放射性物質の状況は次のとおりでした。

1 調査概要

(1) 調査時期

平成25年3月6日(水)

(2) 調査実施機関

環境研究センター

(3) 調査地点(図1のとおり)

手賀沼 4地点:大堀川河口, 大津川河口, 根戸下, 手賀沼中央

(4) 調査方法

柱状採泥器により採泥して、2cmごとに分析

(5) 調査項目

放射性物質濃度:放射性セシウム(セシウム134, セシウム137)

2 調査結果概要

(1) 深度別の放射性セシウム濃度(134及び137の合計)について

大堀川河口、大津川河口及び根戸下では、底質表面から深さ10~12cmまで相対的に濃度が高い放射性セシウムが検出されるが、更に深い部分では濃度が急激に低下している。

手賀沼中央では、深さ18~20cm部分まで大きな変化は見られず、放射性セシウム濃度は他の3地点に比べて低い。

(2) 各地点の放射性セシウム濃度(134及び137の合計)及び最大値となった深度

大堀川河口:不検出~20,100 Bq/kg(乾泥)(深度8~10cm)

大津川河口:不検出~11,300 Bq/kg(乾泥)(深度0~2cm)

根戸下:不検出~9,390 Bq/kg(乾泥)(深度4~6cm)

手賀沼中央:不検出~1,910 Bq/kg(乾泥)(深度6~8cm)

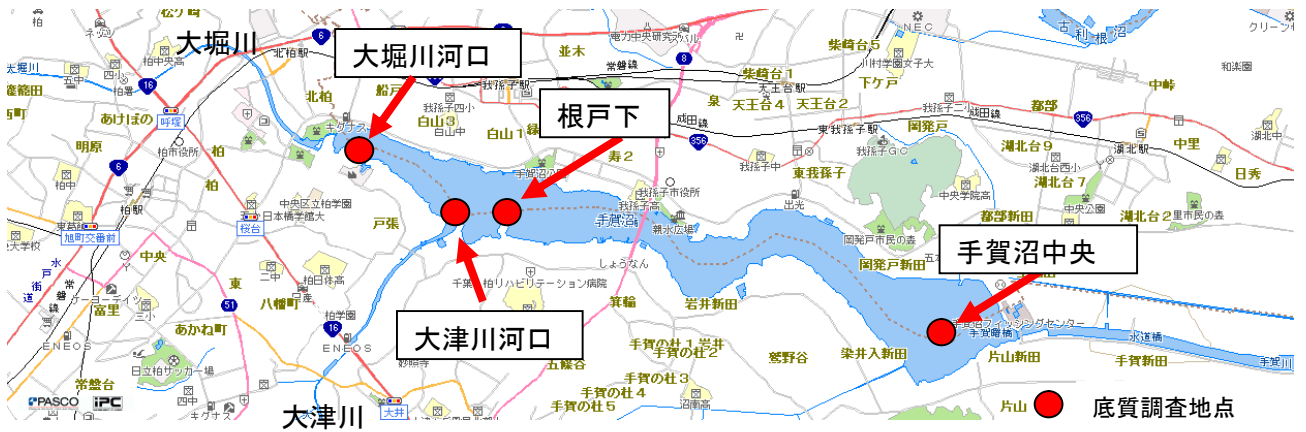


図1 調査地点

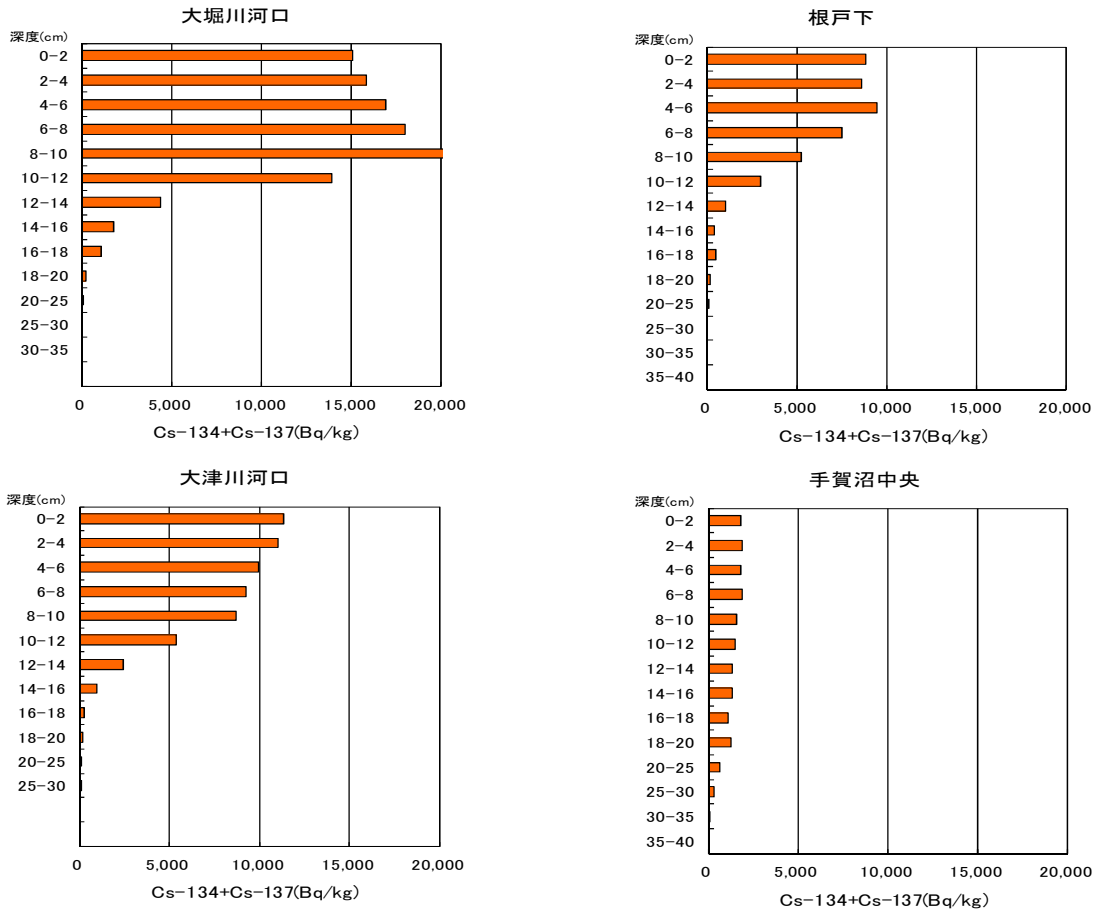


図2 深度別の放射性セシウム (Cs-134+Cs137) 濃度